

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標1\_子育て・教育】

施策 1-3\_学校教育の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10007_02	定時制高校教育振興補助金
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10184_01	学校音楽教育振興事業補助金
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10203_01	社会科副読本発行事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10280_01	中学生海外派遣研修事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10401_01	生きた英語教育推進事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10486_01	学力向上学習支援事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10536_01	別子中学校寄宿舎管理運営費
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10553_01	ESD活動推進事業
1-03-01	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	10584_01	SDGs推進事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10329_01	あすなろ教室推進事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10329_02	不登校対策総合推進事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10331_01	中学校ハートなんでも相談員設置事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10426_01	小学校ハートなんでも相談員設置事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10430_01	スクールソーシャルワーカー活用事業
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10514_01	学校給食会補助金
1-03-02	児童・生徒の健全育成	10634_01	中学校サポートルーム設置事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10066_01	私立幼稚園私学助成事業補助金
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10174_01	小学校指導図書改訂事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10175_01	小学校教育充実事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10179_01	中学校教育充実事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10197_01	小学校施設環境整備事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10198_01	中学校施設環境整備事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10363_01	給食運営改善事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10491_01	学校図書館支援事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10501_01	学校給食多子世帯支援事業補助金
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10554_01	スクール・サポート・スタッフ配置事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10556_01	部活動指導員配置事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10568_01	小中学校ICT環境整備推進事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10570_02	西部学校給食センター建設事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10570_03	西部学校給食センター建設推進事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10631_01	小学校トイレ改修事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10632_01	西部学校給食センター開設準備事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10633_01	西部学校給食センター管理運営費
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10636_01	学校給食支援事業補助金
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10638_01	中学校トイレ改修事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10640_01	中学校照明LED化事業
1-03-03	安全・安心で充実した教育環境の整備	10645_01	通学路安全対策推進モデル地域研究事業

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10007_02		
事業名(行目名称)		教育振興補助事業費	細事業名	定時制高校教育振興補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜西高等学校定時制生徒		数値	52		
	手段(どうやって)	定時制高等学校生徒の健全育成活動、生徒会・文化・体育活動及び定時制高等学校において開催される開放講座等への助成を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	勤労青年、不登校・全日制課程中途退学者など多様な生徒が学ぶ高等学校定時制教育の振興及び生涯学習の場を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		237	237	237	237	○負担金補助及び交付金 237千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	237	237	237	237		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
補助対象校			目標値	1	1	1	1
			実績	1	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
次年度についても今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
高等学校定時制教育の振興及び生涯学習の場の確保のため、継続して事業を実施する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10184_01		
事業名(行目名称)		学校音楽教育振興費	細事業名	学校音楽教育振興事業補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市小・中学校音楽教育振興会	数値	1			
	手段(どうやって)	学校音楽教育における教職員の資質向上のための研修事業等を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校音楽教育における教職員の資質向上と児童生徒の合唱表現・演奏技術力の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		193	200	207	207	○負担金補助及び交付金 200千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	193	200	207	207		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
音楽指導者講習会開催回数		目標値	1	1	1	1	1
		実績	4	4	2	2	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
次年度についても今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
学校音楽における教職員の資質・指導力の向上及び小・中学校の児童生徒の音楽教育の充実を図るため、継続して事業を実施する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10203_01		
事業名(行目名称)		社会科副読本発行費	細事業名	社会科副読本発行事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	令和7年度の小学3・4年生、令和8～10年度の小学3年生及び教員	数値	4500人			
	手段(どうやって)	令和6年度に社会科の教科書が改訂されることに伴い、社会科副読本「わたしたちの新居浜」を全面改訂して発行し、小学校3年、4年生に配布する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	副読本を発行する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			2,302	2,302	2,173	○需用費 2,302千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		2,302	2,302	2,173		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
副読本の発行数		目標値			4500	4500	0
		実績			0	4500	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
次回は、令和10年度に予算化が必要である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)	D:事業の統合・休廃止を検討					
令和6年度から社会科の教科書が改訂されることに伴い、社会科副読本を部分改訂し、小学校3・4年生に配付することができた。 なお、社会科の教科書が改訂されることに伴う事業であるため、事業としては一度休止となるが、次回教科書改訂の際(令和10年度)に予算化が必要である。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10280_01		
事業名(行目名称)		中学生海外派遣費	細事業名	中学生海外派遣研修事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内中学生	数値	1,030人			
	手段(どうやって)	市内の中学生を海外へ派遣し、現地の大学等を訪問し、また、現地での共同生活を通じてその国の生徒やその家族の方々との交流を行う。事前研修会においては、その国の言葉、文化、経済状況、生活習慣を班別に学習し、また、訪問先の生徒等に日本の文化をどう伝えるかを学習する。事後研修・報告会を開催し、実際に肌で感じたこと、この経験を今後どう発展させるかを発表する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市の中学校生徒が現地の英語研修プログラムや体験学習を通じて、両国の生活習慣や異文化に触れ、共に生きていく資質や能力の育成を図ることとする。国際理解のためにも日本人としてまた個人として自己の確立を図り、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な能力の育成を図ることができる。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)		令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			414	414	0		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他		414	414	0		
	一般財源		0	0	0		
○報償費 134千円 ○旅費 53千円 ○需用費 18千円 ○使用料及び賃借料 209千円							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
異文化理解ができたと感じた生徒数		目標値		60	62	62	60
		実績		66	62	62	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
海外派遣については特定少数での学びとなるため、不特定多数が学べる事業について計画する必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
イングリッシュサマーキャンプを計画していたが、学校行事等の日程などを踏まえイングリッシュサマースクールを実施することとしたい。また、オンライン授業についても各学校それぞれの日程で行っているため、その内容で継続することとする。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
令和元年まで32回の海外派遣を実施、令和2年度から令和5年度までの4年間は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止。その後、新型コロナは日本国内においても5類感染症へ移行となったが、昨今の国際情勢、市が行う事業としての意義を含めて総合的に判断した結果、より多くの生徒に学びの機会を提供できる事業(イングリッシュサマースクール)として実施している。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10401_01		
事業名(行目名称)		生きた英語教育推進費	細事業名	生きた英語教育推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校の児童生徒及び教員	数値	9,779人			
	手段(どうやって)	中学校では、ALTと外国語担当教員とのTT(チームティーチング)で、コミュニケーション活動のアドバイス、英文作成等の個別指導を実施している。小学校では、担任と英語指導員及びALTとのTTにより「英語を楽しむ。」「英語を好きになる。」ことに重点を置いて、総合的な学習の時間を利用して英語教育の推進を図っている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	臨場感のある英会話に触れることにより英語教育への関心や意欲を高めるとともに、国際理解教育の推進や英語力の向上を図り、国際的視野に立つ人間性豊かな児童生徒をより多く育成する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)		令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		52,319	46,971	46,971	43,760		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	2,569	2,148	2,148	2,140		
	一般財源	49,750	44,823	44,823	41,620		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○報酬 32,543千円</li> <li>○職員手当等 1,351千円</li> <li>○共済費 5,868千円</li> <li>○旅費 1,245千円</li> <li>○需用費 100千円</li> <li>○役務費 190千円</li> <li>○使用料及び賃借料 3,907千円</li> <li>○備品購入費 242千円</li> <li>○負担金補助及び交付金 1,525千円</li> </ul>							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
中学生のTTに対し意欲が向上した割合(%)		目標値	100	100	100	100	100
		実績	100	100	—	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>ALT個人の英語能力によっては、学校現場とのTT(チームティーチング)の打合せ等で意思疎通が難しい場合もあり、ALTの能力を最大限有効活用するためには、日本人の英語指導員や英語科の教職員との連携が求められる。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>現在のALT7名による配置体制を維持しながら、授業を実際のコミュニケーションの場とし、児童生徒が英語に触れる機会を充実させることでより高度な学びに繋げるため、学校現場からの意見を反映しながら、ALTの活用方法を検討していく必要がある。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>主に中学校を担当するALTだけでなく、小学校を担当する英語指導員とも連携を図りながら、新居浜市の児童・生徒の英語力向上と国際理解教育を一層推進する観点から今後も継続して事業を実施する必要がある。</p>							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10486_01		
事業名(行目名称)		学力向上学習支援事業費	細事業名	学力向上学習支援事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校の児童生徒	数値	8580人			
	手段(どうやって)	小中学生の学力向上のため、教育力向上推進委員会や学力向上研修会の開催のほか、ICT学習支援システムを活用する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童生徒の学力向上を目標に、主体的に学ぶ学習集団づくりのために市全体の教職員の当事者意識の高揚と主体的な実践による課題解決を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,737	1,735	1,735	1,733	○報償費 60千円 ○旅費 35千円 ○負担金補助及び交付金 1,640千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		1,737	1,735	1,735	1,733		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
教育力向上推進委員会開催回数			目標値	2	2	2	2
			実績		2	2	2
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
教育力向上推進委員会について開催回数を増やし、さらなる教職員の当事者意識の高揚と主体的な実践による課題解決を目指したいと考えている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
ICT学習支援システムについては、機能拡張に伴う県負担金が来年度増となる。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
教育力向上推進委員会を開催するとともに、各実践活動部会において、様々な活動を行った。学力向上のため、学習習慣の定着と思考力・判断力・表現力を育む事業を推進していく必要があることから、引き続き事業を継続実施していく。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10536_01		
事業名(行目名称)		別子中学校学び創生事業費	細事業名	別子中学校寄宿舎管理運営費			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子中学校寄宿舎寮生		数値	18人		
	手段(どうやって)	新居浜市街地から生徒を募集し、別子中学校敷地内に整備した寄宿舎で集団生活を送りながら、少人数学習や英語・数学・理科の充実を図る特別な教育課程、ALTの常時在校等による総合的な英語力の育成、地域との協働を含めた多様なESDの推進等の教育活動を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	人口減少と過疎化が進行する別子山地域において、コミュニティの核となる魅力ある学校づくりに取り組み、学校を拠点とした地域の活性化、まちの魅力創出を図るとともに、中学3年間を通じて学力向上及び地域への愛着と誇りを持ち、知・徳・体を備えた人間形成を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		35,480	40,027	40,027	39,088	○報酬 2,990千円 ○職員手当等 456千円 ○共済費 599千円 ○旅費 19千円 ○需用費 3,079千円 ○役務費 238千円 ○委託料 32,448千円 ○使用料及び賃借料 180千円 ○負担金補助及び交付金 18千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	12,190	13,400	13,400	12,252		
	一般財源	23,290	26,627	26,627	26,836		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
英検取得者数 1年4級、2年3級、3年準2級		目標値	17	18	17	17	17
		実績	11	13	11	15	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
英語教育において在校時に多数の英検2級合格者を輩出したり、生徒がふるさと別子夏まつりの復活を手がけたり、別子山地域の農家の人たちと連携して野菜を作り、マイントピア別子で販売会を行う、「別子ファーム」を核とした地域と学校が協働する学びの創造活動を構築したりするなど、別子山に小中学校を残して欲しいと希望した住民の願いを背負った別子中学校の存在は非常に大きく、期待以上の成果をあげているものと評価している。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
寮の運営開始から7年目を迎え、修繕などについても必要箇所が増加しつつあるため、安定的な運営に向けて必要に応じ予算要望を行う。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
平成28年度に学び創生事業として新たな別子中学校のリスタートを行い、平成30年度から通学の負担軽減と「社会でよりよく生きていく力」が育つ寮として、協働しながら自律を目指して成長する特色ある教育活動が行えた。具体的には、中学生と地域がパートナーシップを結び、地域を元気にするために取り組んでいる「地域協働型農業体験学習 別子ファーム」、生徒が企画、復活させた「ふるさと別子夏祭り」、オールイングリッシュの英語の授業などを行った。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10553_01		
事業名(行目名称)		ESD活動推進事業費	細事業名	ESD活動推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校の児童生徒及び教員		数値	9,822人		
	手段(どうやって)	ネットワークの維持、活用のための協議会開催及び教職員を対象とした研修会の開催。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取組み、解決し、実践化していこうとする態度を育成のねらいとし、将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育むESDを行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,902	1,850	1,850	1,713	○報償費 170千円 ○旅費 30千円 ○需用費 1,650千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	162	180	180	123		
一般財源		1,740	1,670	1,670	1,590		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
ESD研修会開催回数			目標値	1	1	1	1
			実績	1	1	0	1
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
あかがね算数・数学コンテストの取組みについては年々参加者が増加しており、一定の成果がでているものと考えている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
学校配分予算については各学校それぞれの取組で執行されているため、ある程度の方向性を示す必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
講義やグループワークを通して、全小・中学校のESD主任がESDの理念を再確認するとともに、SDGsが国際連合で採択された経緯を理解し、学校はもちろんのこと、地域社会全体で達成すべき到達目標であることを体感することを目的として、ESD主任研修会を開催した。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10584_01		
事業名(行目名称)		SDGs推進事業費	細事業名	SDGs推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	地域とともに育つ特色ある学校づくりと生きる力を育む教育の推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内の小中学校児童・生徒及び教職員		数値	9996人		
	手段(どうやって)	小中学生及び教職員を対象とした講演会を開催する。また、啓発用冊子作成を通してSDGsに対する理解促進を図る。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	小中学校におけるSDGs達成に向けた取り組みを効果的に進めるため、17の目標に合致した事業を実施することで、SDGsに対する理解促進を図る。また、教職員がSDGsへの理解を深めることで、子ども達に質の高い教育を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		4,216	4,384	4,384	4,144	○報償費 67千円 ○旅費 8千円 ○需用費 1,173千円 ○委託料 3,086千円 ○使用料及び賃借料 50千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	4,216	4,384	4,384	4,144		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
講演会参加者数		目標値	800	800	800	800	
		実績	853	700	-	516	-
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
来年2月に開催予定のSDGsに関する講演会については、プロポーザルによる委託業者の決定作業まで完了しており、現在、業者において講演会に向けた準備を行っている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
講演会は毎年盛況であり、特に小学生にとってはSDGsという概念に触れるきっかけとなるイベントであることから、今後も継続して実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	B:事業の進め方の改善検討				
講師の幼少期から現在までの経験を踏まえた講演により、参加者からは満足度の高い感想及び評価を得た。しかし、講演会の1カ月前の時点で、申込者数が当初の予定を大きく下回っていたことから、参加申込対象者を拡張(制限解除により一般の申込みも受入れ可能)したため、次年度は財源(新居浜市こども夢未来基金)の目的を考慮しつつ、募集時に参加申込対象者を段階的に広げていく等の周知ができるよう検討する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10329_01		
事業名(行目名称)		いじめ・不登校問題等対策費	細事業名	あすなろ教室推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	不登校児童生徒(不登校傾向にある者を含む)		数値	130人		
	手段(どうやって)	各学校における不登校対策として検討委員会を開催し、不登校問題等について多角的に実態を分析し、その結果を各学校へ提言・資料提供している。学習には関心はあるが、家庭から出ることのできない児童生徒については、在宅学習として、電子メール等を利用して教師が添削・解説し、再度家庭へ配信するなど学習状況の把握に努めるとともに、教室に入れない児童生徒については、相談室等で常時アクセスして学習できるWEB配信型学習教材を活用した学習環境づくりを行う。また、各種の体験活動や宿泊体験活動を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	いじめや不登校などを原因として学校や社会に適応できない児童生徒の学校への復帰と社会的自立を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		11,996	12,546	12,546	12,493	<ul style="list-style-type: none"> <li>○報酬 8,356千円</li> <li>○職員手当等 1,706千円</li> <li>○共済費 1,778千円</li> <li>○報償費 200千円</li> <li>○旅費 269千円</li> <li>○需用費 46千円</li> <li>○役務費 163千円</li> <li>○使用料及び賃借料 23千円</li> <li>○負担金補助及び交付金 5千円</li> </ul>	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	11,996	12,546	12,546	12,493		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
あすなろ教室通級児童生徒数(人)		目標値	10	10	10	10	10
		実績	46	57	34	52	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
通級・児童生徒数はここ数年横ばいである。十分な指導のために、指導員や講師の負担が大きくなっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
遠足を年4回実施しており、これまで送迎を議会マイクロバスで対応していたが、使用不可となったためバスの予算を確保する必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
通級児童・生徒数は目標値にはまだ及ばない。いじめ・不登校等問題の解消に向け、保護者・学校・その他関係機関との連携に係る拠点としてあすなろ教室を運営し、不登校の未然防止や早期発見・解決につながる各事業の継続的な実施が必要とされており、今後も継続して事業を実施する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10329_02		
事業名(行目名称)		いじめ・不登校問題等対策費	細事業名	不登校対策総合推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	不登校児童生徒(不登校傾向にある者を含む)		数値	130人		
	手段(どうやって)	「あすなる教室」の事業とタイアップして行った。通級の児童生徒及び保護者に対しての相談活動やカウンセリング、また、家庭訪問等を行うことにより、児童生徒の悩みや不安を解消し、学校復帰を目指した。また、不登校対策事例の先進地研修を実施し、市、学校及び家庭での取組・対応についての効果があった。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	30日以上欠席の不登校児童生徒だけでなく、不登校傾向のある児童生徒の学校への復帰。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		5,827	4,789	4,789	3,241	○報償費 1,559千円 ○旅費 136千円 ○需用費 10千円 ○委託料 3,084千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
一般財源		5,827	4,789	4,789	3,241		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
不登校による30日以上欠席児童生徒数(人)		目標値	99	99	99	99	99
		実績	230	347	185	460	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
不登校による30日以上欠席児童生徒数は増加傾向にあり、対象児童生徒への支援や関係機関との連携が必要である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
引き続き、カウンセリングやスクールソーシャルワーカー等とのかかわりを通じ、不登校生徒の学校への復帰や社会的自立を目指す。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
あすなる教室との連携の中で、不登校児童生徒の社会的自立に向けた学習支援、体験活動の実施、訪問相談等による相談活動の継続的な取り組みが必要であり、スクール・ソーシャル・ワーカーとの連携も含めて今後も事業を継続していく必要がある。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10331_01		
事業名(行目名称)		中学校ハートなんでも相談員設置事業費	細事業名	中学校ハートなんでも相談員設置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	配置校の生徒及び教員		数値	1,473人		
	手段(どうやって)	スクールカウンセラーを設置していないすべての中学校に「ハートなんでも相談員」を配置し、平成16年度から相談時間数を増加している。生徒、保護者、教員等から相談を受け、適切な対応を図り、また、学校と連携し、家庭訪問等も実施するなど、生徒の問題行動、不登校等未然防止と早期発見・解決を図った。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	生徒たちの悩みや不安、ストレス等を和らげ、豊かな人間性を育む。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,159	2,226	2,226	2,065	○報酬 2,100千円 ○旅費 126千円	
財源	県・国支出金	465	465	465	465		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		1,694	1,761	1,761	1,600		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
相談人数(延べ人数)		目標値	600	600	600	600	600
		実績	686	638	279	575	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
限られた相談日数の中で、相談件数は年々増加しており、相談員への負担が大きくなっている							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
学校からの要望も高く、必要性も高いことから、県への増員要望も含め、引き続き現状維持の方向で実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
教職経験者や地域の適任者の中から相談員を選任し、生徒・保護者、教員等からの相談に適切な対応を図ることで、生徒の問題行動、不登校等未然防止と早期発見、解決を図ることができた。今後も県の補助事業を積極的に活用しながら事業を継続していく。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10426_01		
事業名(行目名称)		小学校ハートなんでも相談員設置事業費	細事業名	小学校ハートなんでも相談員設置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	配置校の児童及び教員		数値	6,425人		
	手段(どうやって)	比較的大規模校(児童数:400人以上)において、概ね70日、280時間(1日当たり4時間程度)を基本として、「ハートなんでも相談員」を設置し、児童、保護者、教員等からの相談を受け、また、地域や中学校との連携を図り、児童の問題行動、不登校等の未然防止と早期発見・解決を図る。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童の悩みや不安、ストレス等を和らげ、豊かな人間性を育み、小中学校の接続・連携の改善を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		3,902	4,158	4,158	3,902	○報酬 3,780千円 ○旅費 378千円	
財源	県・国支出金	1,116	1,116	1,116	1,116		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		2,786	3,042	3,042	2,786		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
相談人数(延べ人数)		目標値	3200	3200	3200	3200	3200
		実績	2842	2898	1753	4149	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
限られた相談日数の中で、相談件数は年々増加しており、相談員への負担が大きくなっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
学校からの要望も高く、必要性も高いことから、引き続き現状維持の方向で実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
教職経験者や地域の適任者の中から相談員を選任し、生徒・保護者、教員等からの相談に適切な対応を図ることで、生徒の問題行動、不登校等未然防止と早期発見、解決を図ることができた。今後も県の補助事業を積極的に活用しながら事業を継続していく。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10430_01		
事業名(行目名称)		スクールソーシャルワーカー活用事業費	細事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小・中学校の児童生徒及び教員		数値	9,779人		
	手段(どうやって)	児童生徒の問題行動等へ対応するため、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒が置かれている保護者等の相談に応じたり、福祉関係機関その他の機関とのネットワークを活用して援助を行う専門家であるスクールソーシャルワーカーを各小中学校へ派遣する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童生徒の問題行動等へ対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒が置かれている様々な環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用して、問題を抱える児童生徒に支援を行うスクールソーシャルワーカーの活用方法について調査研究を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		3,209	3,452	3,452	3,234	○報酬 3,155千円 ○旅費 269千円 ○需用費 28千円	
財源	県・国支出金	1,745	1,744	1,744	1,755		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		1,464	1,708	1,708	1,479		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
支援対象となった児童生徒数(人)		目標値	45	45	45	45	45
		実績	117	81	58	87	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和5年度より4名体制で学校からの相談要請に対応しており、スクールソーシャルワーカーの認知が広まったこともあり、相談や依頼件数が増加している。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
引き続きあすなろ教室等関係機関と連携しながら相談活動、支援等を充実していく。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
社会福祉等の専門的な知識・技術を持ったスクールソーシャルワーカーを各小中学校へ派遣したり相談業務を実施することにより、増加傾向にある支援対象児童生徒に対する支援を行った。 今後も県の補助事業を活用し、あすなろ教室を拠点として、いじめ・不登校・問題行動等に対応するため、引き続き相談活動・支援等を充実していくとともに、関係機関とのネットワーク構築をより深めていく必要がある。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10514_01		
事業名(行目名称)		学校給食推進費	細事業名	学校給食会補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	米飯購入7校の児童生徒数		数値	4037		
	手段(どうやって)	米飯購入校と精米を購入し自校で炊飯する学校との価格差について米飯購入校に対して差額を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内同一水準の給食を提供する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 6,950千円	
経費		16,408	6,950	6,950	5,777		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	16,408	6,950	6,950	5,777		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
差額補助実施校数		目標値	7	7	7	7	
		実績	7	7	7	7	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
米飯の価格差を補填することで、学校間の格差をなくすことができた。2学期以降は、廃止。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
令和6年度2学期以降、小学校調理場を廃止し、センター化したため廃止する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
令和6年度2学期以降、小学校調理場を廃止し、センター化したため事業を廃止する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10634_01		
事業名(行目名称)		中学校サポートルーム設置事業費	細事業名	中学校サポートルーム設置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	児童・生徒の健全育成	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	中萩中学校生徒	数値	454人			
	手段(どうやって)	不登校支援として、中学校内に不登校生徒への支援に特化した取組を行う校内サポートルームを設置する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	専任の支援員により個々の生徒の状況に応じた学習支援を行い、教育機会の確保を図るとともに学校(学級)復帰を支援する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		190	70	70	70	○需用費 5千円 ○役務費 65千円	
財源	県・国支出金	190	70	70	70		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
サポートルームの利用により不登校の状況に改善が見られた生徒の割合		目標値	30.0%	40%	45%	45%	
		実績	37.9%	75%	-	36%	-
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
不登校支援として、例年目標値以上の成果をあげているが、県の事業としての予算の範囲での実施となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
県の事業となるため、その予算の範囲での実施となる。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>登校ナビゲーターを1名配置することで、個別支援(個に応じた学習指導、教育相談)、保護者相談、校内情報共有、指導方針の検討などを行っている。また、ICT支援員を1名配置することで、タブレット学習支援、授業等配信実施などを行っている。成果としては利用生徒実人数25人のうち、状況が好転した人数が9人となっている。また、利用のべ人数も1,242人となっており、前年度と比べて733人増となっており、「生徒が安心できる居場所」としても一定の成果があると考えられる。課題としては不登校等対策・生活支援非常勤講師やハートなんでも相談員、スクールソーシャルワーカー等との連携を更に深め、組織的にサポートルームを活用している生徒の支援に努めていかなければならない。</p>							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10066_01			
事業名(行目名称)		私立幼稚園私学助成費	細事業名	私立幼稚園私学助成事業補助金				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	私立幼稚園(1園)及び在籍する園児・保護者		数値	1園			
	手段(どうやって)	私立幼稚園教育環境(人材など)の向上や公私立格差の軽減のため、私立幼稚園へ助成を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	本市の就学前教育の充実を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		463	678	678	405	○負担金補助及び交付金 678千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	463	678	678	405			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
私立幼稚園就園児数割合 ※令和5年度以降は1園分の割合に変更			目標値	10	10	10	10	0
			実績	11.9	4.7	4.5	4.3	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
次年度についても今年度と同様の予算規模及び方法にて事業を実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)	D:事業の統合・休廃止を検討					
令和7年度から、市内全ての私立幼稚園が新制度に移行したため本事業は不要となる。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	10174_01	
事業名(行目名称)		小学校指導図書改訂費		細事業名	小学校指導図書改訂事業		
総合計画	まちづくり	子育て・教育		施策	学校教育の充実		
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備		担当課	学校教育課		
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小学校			数値	16校	
	手段(どうやって)	4年ごとの教科用図書の採択替えに伴う教師用教科書、指導書を購入のための予算を各学校へ学校配分する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	教職員の教材研究の充実と学習指導要領に基づく児童へのより適切な学習指導を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○需用費 1,147千円 ○備品購入費 42,931千円	
経費			44,078	44,078	43,819		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		44,078	44,078	43,819		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
小学校数			目標値		16	16	
			実績		16	16	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小				
次回は令和10年度に予算化が必要である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
令和6年度から新たな教科書が使用されることに伴い、教師用教科書及び指導書を各小学校に整備することができた。なお、4年ごとの教科用図書の採択替えに伴う事業であるため、事業としては一度休止となるが、次回採択替えの際(令和10年度)に予算化が必要である。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10175_01			
事業名(行目名称)		小学校教育充実費	細事業名	小学校教育充実事業				
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実				
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	小学生	数値	5,890人				
	手段(どうやって)	小学校における教育活動の充実に必要な経費を予算化する。また、学校図書館図書整備充実を図る。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	小学校における義務教育に必要な教材消耗品の購入、社会科見学のバスの借上げ等を行い、教育活動の充実を図る。また、児童が、読書活動を通じて豊かな人間性や感性・読解力などを育むことができるよう、学校図書館図書の充実を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		22,982	26,999	26,999	25,345	○報償費 625千円 ○需用費 17,750千円 ○使用料及び賃借料 8,577千円 ○備品購入費 47千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
一般財源		22,982	26,999	26,999	25,345			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
個人負担を軽減することができた児童数			目標値	5890	5691	5572	5572	5386
			実績	5890	5691	5572	5572	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
特になし。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
保護者の負担を軽減し、教育活動の充実を図るため、現状どおり継続して実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
義務教育にかかる経費の公費負担により保護者の負担軽減を図ることができた。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10179_01		
事業名(行目名称)		中学校教育充実費	細事業名	中学校教育充実事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	中学生	数値	3,142人			
	手段(どうやって)	中学校における教育活動の充実に必要な経費を予算化する。また、学校図書館図書等の整備充実を図る。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	中学校における義務教育に必要な教材消耗品の購入、ふるさと学習のバス借上げ等を行い、教育活動の充実を図る。また、生徒が、読書活動を通じて豊かな人間性や感性・読解力などを育むことができるよう学校図書館図書等の充実を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		17,601	20,843	20,843	17,462	○報償費 393千円 ○需用費 14,532千円 ○委託料 240千円 ○使用料及び賃借料 5,678千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
一般財源		17,601	20,843	20,843	17,462		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
個人負担を軽減することができた生徒数		目標値	3142	3110	3008	3008	2996
		実績	3142	3110	3008	3008	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
保護者の負担を軽減し、教育活動の充実を図るため、現状どおり継続して実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
義務教育にかかる経費の公費負担により保護者の負担軽減を図ることができた。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	10197_01		
事業名(行目名称)		小学校施設環境整備事業		細事業名 小学校施設環境整備事業				
総合計画	まちづくり	子育て・教育		施策 学校教育の充実				
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備		担当課 学校施設課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小学校に通学する児童			数値	5691人		
	手段(どうやって)	施設面では、危険箇所及び老朽化した箇所の工事・修繕を、また、設備面では、保守管理及び故障箇所の修繕等を行っている。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	小学校の施設・設備の適正な保守及び維持管理を図り、児童が安全で快適な教育を受けることができる環境をつくる。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		71,831	40,074	40,074	37,842	○職員手当等 258千円 ○需用費 16,540千円 ○工事請負費 16,335千円 ○備品購入費 6,941千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債	30,000	12,000	12,000	11,800			
	その他	18,027	1,398	1,398	1,353			
一般財源		23,804	26,676	26,676	24,689			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
小学生一人当たりの投入費用(円)			目標値	10000	10000	5000	10000	10000
			実績	17792	12622	3749	6791	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
本年度予定している工事は4件である。1件は完了しており、残り3件は今年度中に施行完了予定である。すべての工事が完了し、施設修繕料等を執行することで、小学校の安心安全な教育環境の維持管理が図られる。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
学校施設の老朽化が進み、老朽化対策が迫られる中、併せてバリアフリー対応等の学校施設の機能向上も求められている状況であり、ニーズに合わせた教育環境の改善が必要である。必要な工事等を精査しながら、子供たちが生き生きと学習や生活を行うことができる安全で豊かな施設環境を確保することが必要である。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
子どもたちの安全を優先し、修繕等により安全で快適な教育環境の維持・確保に努めた。施設の多くが老朽化していく中で、現在の教育環境のニーズに対応し、維持管理に努め、安心で安全な教育環境の整備を進めることが必要であるため、今後も継続して事業を行う。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10198_01		
事業名(行目名称)		中学校施設環境整備事業	細事業名	中学校施設環境整備事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市立中学校に通学する生徒		数値	3,008人		
	手段(どうやって)	施設面では、危険箇所及び老朽化した箇所の工事・修繕を、また、設備面では、保守管理及び故障箇所の修繕等を行っている。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	中学校の施設・設備の適正な保守及び維持管理を行い、生徒が安全で快適な教育を受けることができる環境をつくる。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		86,502	44,614	44,614	39,053	○職員手当等 211千円 ○需用費 9,500千円 ○工事請負費 34,903千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	22,300	25,700	25,700	10,500		
	その他	6,898	2,933	2,933	14,808		
一般財源		57,304	15,981	15,981	13,745		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
中学生1人あたりの投入費用(円)		目標値	16000	16000	7500	15000	
		実績	18690	27814	7017	12983	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>本年度工事を予定している4件のうち、2件が完了し、残りの2件についても年度内に実施予定である。すべての工事が完了することに加え、施設修繕料等を執行することで、中学校の安心安全な教育環境の維持管理が図られる。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>学校施設の老朽化が進み、老朽化対策に追われている中、併せてバリアフリー対応等の学校施設の機能向上も求められている状況であり、ニーズに合わせた教育環境の改善が必要である。必要な工事等を精査しながら、子供たちが生き生きと学習や生活を行うことができる安全で豊かな施設環境を確保することが必要である。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>当初予定していた工事がすべて完了し、施設修繕等も実施することで教育環境の改善を図れた。今後においても学校施設の老朽化が進んでいることから必要な工事等を精査し安心安全な教育環境を整備する。なお、受変電設備改修については、事業を繰り越した。</p>							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	10363_01	
事業名(行目名称)		給食運営改善事業		給食運営改善事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育		学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備		学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校児童生徒(ひびき分校除く)			数値	9188	
	手段(どうやって)	厨房関係施設設備の修繕及び更新。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校給食調理場の施設・設備の維持管理、更新及び改善措置を行い、円滑で安全な学校給食の運営を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員手当等 122千円</li> <li>○需用費 35,541千円</li> <li>○委託料 1,309千円</li> <li>○使用料及び賃借料 555千円</li> <li>○工事請負費 8,734千円</li> <li>○備品購入費 149,241千円</li> </ul>	
経費		95,890	195,502	195,502	172,288		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	58,700	45,300	45,300	43,300		
	その他	0	654	654	595		
一般財源		37,190	149,548	149,548	128,393		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
厨房機器更新台数			目標値	5	8	2	2
			実績	5	8	2	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
学校給食センターは建設から20年以上経過し、段階的な更新が必要。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
老朽化が進んでいる機器を段階的に更新する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
厨房関係設備の修繕及び更新により、円滑で安全な学校給食の運営ができた。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	10491_01		
事業名(行目名称)		学校図書館支援センター充実費		細事業名	学校図書館支援事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育		施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備		担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	小中学校の学校図書館			数値	26館		
	手段(どうやって)	学校図書館支援センターから各学校に学校司書を派遣し学校図書館の環境整備を進める。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校図書館の環境整備や調べ学習や図書資料を活用した授業支援及びESDの取組を行い、児童生徒の主体的な学習活動を充実し豊かな感性を育む。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		23,144	29,318	29,318	27,411	○報酬 17,829千円 ○職員手当等 3,640千円 ○共済費 3,896千円 ○報償費 66千円 ○旅費 1,367千円 ○需用費 158千円 ○委託料 172千円 ○使用料及び賃借料 2,190千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	23,144	29,318	29,318	27,411			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
授業支援件数			目標値	2800	2800	2800	2800	2800
			実績	3593	3576	1793	3763	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>中学校の学校図書支援においては司書の増員が課題となっている。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>司書の増員が課題となっているが、令和7年度については現状の予算内での対応とする。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>小学校を中心に学校司書を派遣し、購入図書の選書や、図書館の本・環境の整備等の図書館司書の役割だけでなく、委員会活動や、各教科の授業と関連する図書の紹介を行ったり、毎週各学年の授業に参加して「読み書きの力」の向上を図ったりなど授業支援の充実が図られた。</p>								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10501_01		
事業名(行目名称)		学校給食多子世帯支援事業費	細事業名	学校給食多子世帯支援事業補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	多子及び所得等の条件を満たす小中学校児童生徒		数値	132		
	手段(どうやって)	市内小中学校に一世帯に3人以上在籍する児童生徒のうち、第3子以降の学校給食費を減免する。保護者から学校を通じて新居浜市学校給食会に減免申請し、新居浜市学校給食会が認定、学校に補助金を振込み、学校から学校給食会に給食材料費(牛乳代を除く)として振り込む。(概算払い、学期ごとに清算する)					
	目的(どんな状態にしたいのか)	子育て世代の経済的負担の軽減と少子化対策の一助とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,296	2,876	2,876	1,688	○役務費 44千円 ○負担金補助及び交付金 2,832千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	100	0	0	0		
	一般財源	2,196	2,876	2,876	1,688		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
補助対象児童生徒数		目標値	84	55	51	51	
		実績	51	45	36	32	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
子育て世代の経済的負担軽減に資しており、継続して実施する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
現状のまま継続する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
市内小中学校に一世帯に3人以上在籍する児童生徒のうち、所得等の条件を満たす第3子以降の学校給食費を減免することにより、子育て世代の経済的負担の軽減を図ることができた。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10554_01		
事業名(行目名称)		スクール・サポート・スタッフ配置事業費	細事業名	スクール・サポート・スタッフ配置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小中学校(配置校)の教員		数値	219人		
	手段(どうやって)	教材作成の補助、各種調査等の集計など教員の事務業務を補助するスクール・サポート・スタッフを配置する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	教職員でなければならない業務を明確にするとともに、それ以外の業務についてスクール・サポート・スタッフを積極的に活用することで、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる時間を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		17,440	19,906	19,906	19,428	○報酬 15,774千円 ○職員手当等 3,124千円 ○旅費 1,008千円	
財源	県・国支出金	10,032	11,357	11,357	11,287		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		7,408	8,549	8,549	8,141		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
業務負担軽減を感じた教職員の割合(%)			目標値	85	85	85	85
			実績	89	96	0	96
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>要望のあった25校のうち、補助対象校となった20校に配置し、各校で業務を行っている。業務負担軽減を感じた教職員の割合も高いことから、未配置である残り5校においても配置を要望する声が上がっている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
<p>愛媛県の最低賃金が上がったことによる単価の見直しが必要なため、今年度より拡大すると思われる。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>児童生徒への指導等に注力できる体制の整備として、スクール・サポート・スタッフを配置することは有効と感じた教職員は98%に上っており、配置効果は大きいと考えられるため、今後も事業を継続させていく。</p>							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10556_01		
事業名(行目名称)		部活動指導員配置事業費	細事業名	部活動指導員配置事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	配置校の中学生・教員		数値	764人		
	手段(どうやって)	中学校の部活動において技術的な指導に従事する部活動指導員の配置が制度化されたことから、配置が必要と判断される市内中学校に専門的知識、技能を有する部活動指導員を配置して指導内容を充実させる。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	生徒の活動意欲や競技力の維持、向上を図るとともに、部活動顧問の負担を軽減する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		767	1,899	1,899	1,711	○報酬 1,715千円 ○旅費 184千円	
財源	県・国支出金	496	1,218	1,218	1,012		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
一般財源		271	681	681	699		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
部活動指導員を配置している部活動数			目標値	3	5	5	5
			実績	3	3	5	5
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
顧問が教務主任の役職についているなど、県の実施要領の条件を満たす場合のみの配置となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
部活動地域移行の方向性検討に向けても部活動指導員の役割は重要と考えているため、引き続き配置を行う。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
部活動指導員を配置することで生徒の活動意欲や競技力の維持、向上を図るとともに、部活動顧問の負担を軽減することができた。また、部活動地域展開を目指し、その担い手、受け皿を模索する上でも、部活動指導員もその手段の一つとして充実を図る必要がある。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10568_01	
事業名(行目名称)		小中学校ICT環境整備推進事業費	細事業名	小中学校ICT環境整備推進事業		
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実		
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	児童及び生徒		数値	8,580人	
	手段(どうやって)	GIGAスクール構想で整備した1人1台のタブレット端末、無線LAN機器、電子黒板等を適切に維持管理し、必要な機器を追加整備することでICT教育を推進する。また、校務のICT化のため校務用PCや統合型校務支援システム及びICT支援員を整備する。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	1人1台のタブレット端末等整備したICT機器を活用し、GIGAスクール構想の主な目的である児童生徒一人一人に個別最適化された教育を実現する。また、校務用ICT機器やシステムを活用することで業務の効率化を図り、教員の負担軽減を図る。				
III 投入費用						
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		346,682	337,708	337,708	330,982	○報酬 2,064千円 ○職員手当等 422千円 ○共済費 440千円 ○旅費 51千円 ○需用費 2,500千円 ○役務費 200千円 ○委託料 28,829千円 ○使用料及び賃借料 291,803千円 ○備品購入費 10,057千円 ○補償補填及び賠償金 1,342千円
財源	県・国支出金	0	0	0	0	
	地方債		0	0		
	その他	59	0	0	0	
	一般財源	346,623	337,708	337,708	330,982	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度
児童生徒一人当たりの投入費用(円)		目標値	38600	39000	39000	39000
		実績	38672	39391		38575
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			高い
学習用タブレットなどは文房具の一つとして定着しつつあるが、さらなる利用促進のため、環境整備に努める。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大			
校務用PC、学習用タブレット、電子黒板などのメーカー保証終了等を理由とした更新を控えており、そのための予算が必要となる。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
整備した児童生徒一人1台タブレットの学校内での活用や家庭への持ち帰り学習も進むことで、ICT教育を推進することができた。また、校務用PC・校務支援システムを活用した校務効率化も図られている。今後も、教員への研修の充実や運用方法の見直しを行い、タブレットやシステムの効果的な活用が可能な環境整備を実施する。						

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10570_02		
事業名(行目名称)		学校給食センター建設事業	細事業名	西部学校給食センター建設事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小・中学校児童生徒等		数値	7100		
	手段(どうやって)	DB方式により新たな学校給食センターを整備し、令和6年9月からの供用開始を目指す。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	老朽化した小学校の給食室等の代替施設として、学校給食衛生管理基準に適合した新たな学校給食センターを整備することにより安心・安全な学校給食の提供を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○工事請負費 437,830千円	
経費		1,991,480	437,830	437,830	436,518		
財源	県・国支出金	300,061	0	0	10,833		
	地方債	1,289,800	328,300	328,300	327,300		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	401,619	109,530	109,530	98,385		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
事業の進捗状況(%) (請負金額ベース)		目標値	30	80	100	100	
		実績	12	87	100	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
西部学校給食センターは、令和5年度末に施設が完成し、開業準備を経て、予定通りに令和6年9月から供用を開始した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
西部学校給食センターが供用開始したことから事業を終了する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
西部学校給食センター(はまっこ給食センター)が完成し、開業準備期間を経て令和6年9月から供用を開始し、子どもたちに安全・安心な給食を提供している。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10570_03		
事業名(行目名称)		学校給食センター建設事業	細事業名	西部学校給食センター建設推進事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小・中学校児童生徒等		数値	7100		
	手段(どうやって)	DB方式により新たな学校給食センターを整備し、令和6年9月からの供用開始を目指す。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	老朽化した小学校の給食室等の代替施設として、学校給食衛生管理基準に適合した新たな学校給食センターを整備することにより安心・安全な学校給食の提供を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		4,180	1,000	1,000	1,000	○委託料 1,000千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	4,180	1,000	1,000	1,000		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
事業の進捗状況(%) (請負金額ベース)		目標値	30	95	100	100	
		実績	71	94	100	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
令和5年度末に西部学校給食センターが完成したことから、モニタリング業務も令和6年4月末をもって終了した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
西部学校給食センターが令和6年9月から稼働したことから事業を終了する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
令和5年度末に西部学校給食センターが完成したことから、モニタリング業務も令和6年4月末をもって終了した。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10631_01		
事業名(行目名称)		小学校トイレ改修事業	細事業名	小学校トイレ改修事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小学校に通学する児童		数値	5,572人		
	手段(どうやって)	小学校施設のトイレについて、洋式化、乾式化及び配管などの改修工事を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童生徒の学びの場であるとともに災害時の避難所としての役割もある学校施設について、衛生的で快適なトイレ環境を整備する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○工事請負費 142,836千円	
経費		72,079	142,836	142,836	140,553		
財源	県・国支出金	19,552	31,474	31,474	35,723		
	地方債	48,300	83,500	83,500	78,500		
	その他	4,227	27,862	27,862	26,330		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
改修工事実施校数		目標値		1	0	2	
		実績		1	0	2	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
<p>泉川小学校北棟、中萩小学校北棟のトイレ改修工事を実施している。トイレが使えない期間・騒音等、学校運営との兼ね合いが課題となっているが、学校側と細やかに打合せを実施することで円滑に工事ができるよう努めている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
<p>予定していたトイレ改修を完了したため、一旦事業を休止する。今後は、学校施設長寿命化計画の実施状況に合わせて事業の再開を検討する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)					
<p>予定通りに工事が完了し、当面の目標であった洋式化率60%を達成することが出来た。</p>							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10632_01		
事業名(行目名称)		西部学校給食センター開設準備事業	細事業名	西部学校給食センター開設準備事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	小中学校児童生徒等		数値	7100		
	手段(どうやって)	新たな学校給食センターを整備し、令和6年9月から開業できるよう、準備事務を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	安心、安全な学校給食を安定的に供給する体制づくりを目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		49,672	53,859	53,859	53,802	○役務費 349千円 ○使用料及び賃借料 11,210千円 ○備品購入費 42,240千円 ○公課費 60千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	7,040		
	地方債	31,400	31,600	31,600	31,400		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	18,272	22,259	22,259	15,362		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
契約件数		目標値	3	2	2	2	
		実績	3	2	2	2	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
円滑に開設準備を実施することができた。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
開設が完了したため、管理事業に移行し、開設準備事業は廃止する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
令和6年9月に、西部学校給食センターを開業することができたため、事業を廃止する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10633_01		
事業名(行目名称)		西部学校給食センター管理運営費	細事業名	西部学校給食センター管理運営費			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	西部学校給食センター受配校児童生徒		数値	約6,000人		
	手段(どうやって)	西部学校給食センターの維持管理、調理配送、配膳員の雇用					
	目的(どんな状態にしたいのか)	西部学校給食センター受配校の児童生徒に安全安心な学校給食を安定的に提供する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			261,065	261,065	226,454	○報酬 23,794千円 ○報償費 8千円 ○旅費 1,470千円 ○需用費 57,716千円 ○役員費 3,424千円 ○委託料 172,547千円 ○使用料及び賃借料 2,079千円 ○負担金補助及び交付金 17千円 ○公課費 10千円	
財源	県・国支出金	0	9,867	9,867	11,465		
	地方債		0	0			
	その他		0	0	0		
	一般財源		251,198	251,198	214,989		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
給食提供校数(県立特別支援学校含む)		目標値				18	
		実績				18	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
効率的かつ安定した学校給食の提供に向けて、管理運営を継続する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
2学期以降稼働開始したが、光熱水費等が試算額よりも必要となったため、現状より拡大する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
西部学校給食センター受配校の児童生徒に、安全安心な学校給食を安定的に提供することができた。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10636_01		
事業名(行目名称)		学校給食支援事業費	細事業名	学校給食支援事業補助金			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校給食課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	児童・生徒	数値	8500			
	手段(どうやって)	児童生徒の給食費に対して、1食あたり30円を補助する。また、令和6年度の米価高騰に対して、値上げ前価格との差額を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	物価高騰に対して、給食の品質を維持しつつ、相対的な保護者負担を軽減する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		51,513	52,740	52,740	50,983	○負担金補助及び交付金 52,740千円	
財源	県・国支出金	51,513	52,740	52,740	50,983		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
保護者負担軽減額(1食あたり)		目標値		30	30	30	
		実績		30	30	30	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
物価高騰に伴う保護者負担を軽減できている。ただし、交付金事業のため令和7年度以降は廃止予定。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
国交付金の見込みがないため廃止する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
物価高騰の影響を受ける学校給食用食材購入費を助成し、従来の栄養バランスや量を保った学校給食を提供することにより、子育て世帯を支援することができた。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10638_01		
事業名(行目名称)		中学校トイレ改修事業	細事業名	中学校トイレ改修事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内中学校に通学する生徒		数値	3,008人 3110		
	手段(どうやって)	中学校施設のトイレについて、洋式化、乾式化及び配管などの改修工事を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	児童生徒の学びの場であるとともに災害時の避難所としての役割もある学校施設について、衛生的で快適なトイレ環境を整備する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		50,374	78,667	78,667	75,400	○工事請負費 78,667千円	
財源	県・国支出金	11,857	23,333	23,333	23,566		
	地方債	34,200	41,500	41,500	38,800		
	その他	4,317	13,834	13,834	13,034		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
改修工事実施校数		目標値		1	0	1	
		実績		1	0	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
角野中学校北棟のトイレ改修工事を実施している。トイレが使えない期間・騒音等、学校運営との兼ね合いが課題となっているが、学校側と細やかに打合せを実施することで円滑に工事ができるよう努めている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
予定していたトイレ改修を完了したため、一旦事業を休止する。今後は、学校施設長寿命化計画の実施状況に合わせて事業の再開を検討する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)					
予定通りに工事が完了し、当面の目標であった洋式化率60%を達成することが出来た。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10640_01		
事業名(行目名称)		中学校照明LED化事業	細事業名	中学校照明LED化事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校施設課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内中学校に通学する児童	数値	3,008人			
	手段(どうやって)	中学校体育館の照明を省エネ効果の高いLED照明に更新する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	中学校体育館の照明に使用されている水銀灯照明が水俣条約により製造・輸入が禁止されたため、今後も使用できる照明器具に更新することで教育環境の維持管理を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○工事請負費 33,137千円	
経費		18,950	33,137	33,137	27,722		
財源	県・国支出金	6,378	9,669	9,669	8,225		
	地方債	9,400	18,100	18,100	15,000		
	その他	3,172	5,368	5,368	4,497		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
実施校数		目標値		2	3	3	
		実績		2	3	3	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
今年度は川東中学校、大生院中学校、別子小中学校の3校で体育館照明改修工事を実施し、3校とも工事を完了した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
体育館照明施設のLED化については、今年度の工事をもって全ての学校で完了した。(平成22年度建築の北中学校は水銀灯ではなくメタルハライドであるためそのまま使用)							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)	C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討					
今年度は川東中学校、大生院中学校、別子小中学校の3校で体育館照明改修工事を実施し、体育館についてはLED化が完了した。今後は校舎のLED化を進めていく必要がある。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	10645_01		
事業名(行目名称)		通学路安全対策推進モデル地域研究事業費	細事業名	通学路安全対策推進モデル地域研究事業			
総合計画	まちづくり	子育て・教育	施策	学校教育の充実			
	基本計画	安全・安心で充実した教育環境の整備	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	指定中学校区内の小・中学校	数値	1校			
	手段(どうやって)	通学路安全マップの作成、児童、保護者、地域住民等の参加による通学路環境の点検調査及び危険箇所の洗い出し、児童、保護者、地域住民等の参加による通学路環境の改善策の検討、作成した安全マップの配布					
	目的(どんな状態にしたいのか)	各学校において、学校安全に係る校内会議等の実施及び学校安全教育の充実を図る。災害安全をはじめとする総合的な安全対策を検討し、改善策を講じる。警察、道路管理者、地域、学校、教育委員会等の関係機関が緊密に連携・協働する体制を整備し、通学路における児童・生徒の安全確保に向けた実効的な取組を進めていく。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			200	200	200		
財源	県・国支出金	0	200	200	200	○報償費 100千円 ○旅費 38千円 ○需用費 62千円	
	地方債		0	0			
	その他		0	0	0		
	一般財源		0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
他校や地域への情報共有を行った学校の割合		目標値			100%	100%	100%
		実績			100%	100%	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
<p>新たに整備された道路について、通学路に指定した場合、新たな危険箇所の洗い出しが必要となる。また、新入生などの通学路の交通安全に関する取組みについては毎年行う必要がある。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
<p>県指定事業のため、来年度は実施しない。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
<p>計3回の通学路安全実践委員会の開催を通して、校区内の通学路の危険箇所を共有し、安全対策の知識や実践力を高めることができた。金栄小学校では以前より、地域の方に協力してもらいながら「金栄小防災まち歩き」という学習を行っている。今年度は「金栄小防災まち歩き」で学んだことを安全マップにまとめることで、より学習を深めることにつながった。また、学校が市街地にある利点を生かし、今後、駅や公共施設、商業施設に児童が作成した安全マップを展示してもらうことで、子どもたちの取組を市内全域に展開していきたい。 なお、県指定校事業として県から受託した事業であるため、事業としては令和6年度限りとなる。</p>							